

ほんやorium

町はずれのトム

トムは町のかなりはずれた所に住んでいました。なので、小学校までは誰よりも遠く、毎朝ともだちより3時間も早く家を出ていました。いえ、本当はみんなと同じはやさで歩いたなら、みんなより30分早く家を出れば間に合う距離なのです。

トムは本当に歩くのが遅いのです。たぶん、今みなさんが想像したよりも、3倍は遅いと思うてください。なので、せっかちな人から見ると、止まっているようにさえ見えるのです。そんなにゆっくり歩くので、毎朝、校門の近くでは学校中のみんなが、トムにあいさつをすることになります。どうしてかって？ それはこんな理由です。

トムの通っている学校は校門まで、キャロットウッドが一直線に植えられた並木道になってます。200メートルはあるのではないのでしょうか？

この並木道は、学校のじまんの並木道なのです。トムがその200メートルを抜ける前に、みんながトムを追い抜いてしまうのです。そして、みんなはトムに挨拶するのです。

「おはよう、トム」

そして、トムが挨拶に気づいて「やあ」って言葉を返す頃には、みんなだいが先を歩いてました。みんながトムが並木道のどこを歩いているかで、遅刻しそうかどうかを判断していたので、いつしかその学校じまんの並木道は「トムどこストリート」とヘンテコな名前が付けられていました。

トムはいつも、ブカブカのトレーナーを着て、少しゆったりのズボンをはいています。そして、なぜかトムはブローチを背中につけていました。なので後ろすがたで、みんなはすぐトムと分かりました。今日のトムは、ふたまたに分かれた木の枝をブローチにしてくっつけていました。みなさんの想像するブローチほど立派なものではなく、貼り付けてあるって方がふさわしい言い方もしませんね。

トムはじつは歩くだけではなく、話すスピード、食べるスピード、まばたきするスピード、笑うスピードなど、そのほかなんでも遅かったので、みんなから「ぼんやりトム」と呼ばれていました。トムと話すときはにんたいが必要です。特ににんたいが必要なのは、トムに何か質問をするときです。話しかけるだけなら、あいづちが遅いなあって、思いながらしゃべれば良いのですが、何か質問をしようものなら、長くだまって考えるトムを待たなければいけません。ぼーっとしたように考えた後で、トムはまたゆっくりと返答をします。

またランチの時間には、みんなは早く食べおわって昼休みは外に遊びに行きたいので、大急ぎで食べます。しかしトムは、本当にゆっくり食べるので、昼休みにみんなと一緒に外に遊びに行くことができません。午後の授業が始まって、食べ終わらないときがあるので、その時は先生がランチを一度ストップさせ、ランチの残りをタッパーに入れて、午後の授業を受けさせました。

トムはそれをながい帰り道のとちゅうで、ほおばりながら帰りました。

そんなトムは、みんなに愛されていました。トムが通っている学校は、BYR小学校と言い、『しんがくこう』でした。みんなは『良い大学』『良い会社』に入ることが大きな二つの目標でした。この二つの目標のむずかしいところは、その席は数が限られている、と言うところです。これが出来たから、これだけの点数を取れたから、それだけでは不十分です。限られた席にすわるには、友達よりゆうしゅうな点数を取らなければなりません。かけっこで一番はひとりしかなれないのに似ています。

トムが愛されていた理由には、実はそのことと関係がありました。

「トムには負けないから席にすわるには都合がいいぞ」

「トムを見てみると、じぶんはずいぶんマシだぞ」

トムがいることで、みんなは自分がそんなに悪くないと思えるのです。